

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第25回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第9回総会議事録
- ◇第13回「大学と科学」公開シンポジウム
- ◇「惑星大気研究会」(PACK)の開催の御案内

◇日本惑星科学会第25回運営委員会議事録

開催日時：1998年5月26日(火) 18:30～20:30

場 所：地球惑星科学関連学会合同大会会場
(C104)

出席者：中澤, 水谷, 高木, 向井, 山本, 小林,
渡邊, 渡部, 田近, 井田, 杉浦, 阿部,
佐々木, 村江, 香内, 土山, 大谷, 福
岡

欠席者：松井, 林, 寺沢 (以上3人は委任状あり),
藤原

I. 報告等

①学会員の現況について

中澤会長より, 5月25日現在の登録会員についての報告があった。

②合同欧文誌について

佐々木委員より, 合同欧文誌EPSの出版状況について報告があった。合同誌は, 順調に発行されているが, その内容は前身であるJPEやJGGがカバーしていた分野に偏っている。惑星科学会としては, 積極的な投稿と購読を増やす努力が求められている。

③遊星人の発行状況

村江編集委員長および高木前編集幹事から, 「遊星人」の発行状況について, 特集号の編集は順調

であるが一般投稿が少ない状況であるとの報告があった。また, 編集幹事が高木委員から中村良介委員に交替したとの報告があった。

④1998年秋季講演会準備状況

向井委員から, 神戸大学で行われる予定の秋季講演会の準備状況に関する報告があった。

⑤日本学術会議

中澤会長より, 日本学術会議に関連する以下の報告があった: 第1回地球物理学研究連絡委員会, 第3回惑星科学専門委員会, 理学総合連絡会議, 第2回地球物理学研究連絡委員会。詳細は「遊星人」Vol.7, p164 参照。

⑥2003年IUGG誘致準備委員会

山本委員より, 2003年のIUGG日本開催を1999年にバーミンガムで開催されるIUGGに提案する方向で, 準備委員会で議論されている旨の報告があった。

⑦2000年WPGM日本開催について

阿部委員より, 2000年にWPGMを日本で合同大会にあわせて開催することが決定したことが報告された。しかし, 合同学会連絡会の権限が弱く問題点もあるとのことである。

⑧地球惑星科学関連学会学会長懇談会

山本委員より5月27日に関連学会学会長懇談会が

開催され、日本学術会議、IUGG日本開催、合同大会、合同誌などの現状と問題点に関する報告および意見交換がなされた旨の報告があった。

II. 議事

運営委員会の成立を確認後、議事に入った。

①入退会者について

中澤会長より、前回運営委員会以後の入退会者および除名者案が提案され、提案通り了承された。

②決算報告及び次期予算原案について

第4期上期(1997年度)の決算につき、別紙資料(総会議事録参照)に基づき渡邊財務専門委員長より以下の通り報告があった。収入・収支はおおむね予算通り執行された。しかし、収入の部では学会費の納入率が予測を下回った。支出の部では、学会誌出版事業費が予算額をかなり上回ってしまった。

引き続き、堀内・松田監事による会計監査の結果、収支決算に誤りのないことが報告され、決算案は原案通り了承された。

渡邊財務専門委員長より、第4期下期(1998年度)予算につき別紙資料(総会議事録参照)を基に原案の説明があった。会の発足時より順調に増加してきた会費収入は、昨年度はじめて前年度を下回るマイナス成長となり、今年度は会費収入の減少が予想され

る。さらに、合同大会における惑星科学セッションのアブストラクトを学術情報センターへ提供することで得ていた収入が、今年度から合同大会LOCにもたらされることとなり、その分の収入も減る予定である。いっぽう、今年度は選挙の年で例年以上の支出が見込まれる。したがって、今年度の収支はほとんどゼロになる可能性がある旨の説明があり、予算案が原案通り了承された。

学生会員の会費の徴収率を上げるために、学生会員の把握方法を1年をめぐりに検討することとなった。

③会計年度の変更

合同大会の開催時期の変更に伴う会計年度の変更に関する議論がなされた。しかし、会計年度の変更については種々の問題点があること、また、さほど緊急性を有しないことから、継続審議とすることとなった。

④1999年秋季学会講演会開催候補地について

香内総務専門委員長より、1999年秋季学会講演会は東北大学に依頼したい旨の説明があった。続いて、大谷委員より東北大学での開催を引き受けたい旨、表明があり、了承された。

⑤しし座流星群観測会後援

天文教育普及協会より、11月のしし座流星群にあわせた全国的規模の観測会への後援依頼があり、了承された。

◇日本惑星科学会第9回総会議事録

開催日時：1998年5月28日 14:00～15:40

開催場所：地球惑星科学関連学会合同大会会場
C102(国立オリンピック記念青少年総合センター)

出席者数：119名(内委任状80名)

1. 開会宣言

香内総務専門委員長より開会宣言があり、その

後阿部会員を議長に、田近会員を書記に選んだ。

2. 議事

2.1 第4期上期活動基調報告

中澤会長より、第4期上期の学会活動の基調報告が以下の通りあった。

現在、会員数は518名(うち学生会員は131名)であり、日本惑星科学会も他の地球惑星科学関連学会

の規模に匹敵するようになってきた。しかし、最近では入会者と退会者の数がほぼ釣り合っており、定常状態に入りつつあるように思われる。財政状況は、賛助会員が退会するなどによって、悪化傾向にある。惑星科学専門委員会の活動としては、第17期（今年を含めて3年間）の中頃までに、惑星科学の将来計画を対外報告としてまとめたいと考えている。また、惑星科学の国際的な対応窓口をどうするかについても、議論していきたい。行革の流れの中で、学術会議はもういらぬという意見もあるようだが、学術会議の存在意義を主張するためにも、学術会議の発言権強化のためにも、現在学術会議の構成を見直すことが検討されている。

地球惑星科学関連学会長等懇談会が5月26日に行われた。合同大会の規模が大きくなったこともあり、LOCの負担を減らすために開催場所を今回の会場に固定すること、将来的には事務局が必要ではないかという意見が出された。また、2003年にIUGG (International Union of Geodesy and Geophysics) を日本に招致することが議論されているが、どのような組織で対応するべきかが問題であるように

思われる。これに関連して、今後の学会の連合形態としては、国際対応や学会員名簿の一括管理などの目的でアメリカのAGUのような組織をつくるべきではないかという意見も出された。2000年にはAGUのWPGM (Western Pacific Geophysics Meeting) を日本に招致することになりそうであるが、その場合、合同大会と一緒に開催される可能性が高く、時期的には6月下旬になりそうである。合同大会開催時期を考えると、今後、学会の会計年度が現状のままでも良いかどうかについて議論する必要が生じるかも知れない。合同誌は現在まで順調に発行されている。しかし、惑星科学会には投稿と購読の点で改善が求められている。

2.2 編集専門委員会報告

高木会員(村江委員長代理)より編集専門委員会の報告がなされた。遊星人はだんだんページ数が増加する傾向にあるが、今後はむしろ内容をいっそう充実させる方向で努力する方針である。また、現在は特集に依存した形式になっているが、今後は個人の投稿数を増やすように努力したい。

貸借対照表

1997年12月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
現金預金	969,484	未払金	891,717
未収金	115,657	前受会金	32,000
流動資産合計	1,085,141	流動負債合計	923,717
固定資産		固定負債	
貯蔵品	50,000	長期借入金	0
固定資産合計	50,000	固定負債合計	0
		負債合計	923,717
		正味財産	211,424
		正味財産合計	211,424
資産合計	1,135,141	負債及び正味財産合計	1,135,141

2.3 会計報告

渡邊財務専門委員長より、第4期上期（1997年度）の決算報告が以下の通りあった。収入・収支はおおむね予算通り執行された。ただし、収入の部では学会費の納入率が予測を下回った。支出の部では、学会誌出版事業費が予算額をかなり上回ってしまった。これは、前年度の遊星人第4号の発行が年を越したため、昨年は年回5回の発行となったためである。これにページ数増加による費用の増大が追い打ちをかける形となっている。ただし、昨年半ばに遊星人が学術刊行物に認可されたことにより、第3号から郵送費が大幅に減額されるように

なったため、送料運搬費については逆に予算額を下回る結果となっている。全体として、当期収支差額は約25万円の赤字となり、前期繰越金と合計して、次期繰越収支差額は約16万円となった。

2.4 会計監査報告

壇内会員より、会計監査の結果、以下の通り、会計監査報告があった。

会計からの収支決算を監査した結果、収支計算に誤りのないことを確認しました。

日本惑星科学会監事 壇内千尋
松田准一

第4期上期（1997年度）決算報告書（1997年1月1日～1997年12月31日）

I 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	備 考
会費収入	3,582,000	3,390,800	
一般会費収入	2,346,000	2,048,800	含海外会員
学生会費収入	616,000	404,000	
賛助会費収入	900,000	700,000	
滞納分納入	302,000	238,000	636,000円のうち
当期分未収会費	△582,000	—	
学会誌出版事業費収入	65,000	64,750	遊・星・人
講読料	70,000	64,750	個人・機関講読
広告料	0	0	
秋季講演会事業収入	344,000	336,000	立命館大学
予稿集頒布収入	130,000	116,000	
参加費	210,000	153,000	
雑収入	0	67,000	立命館大寄付
寄付金収入	0	0	
雑収入	181,000	187,665	
受取利息	1,000	1,823	
その他の収入	180,000	185,842	学情入力、複写使用
当期収入合計 (A)	4,177,000	3,979,215	
前期繰越収支差額	411,375	411,375	
収入合計 (B)	4,588,375	4,390,590	

II 支出の部

科 目	予算額	決算額	備 考
学会誌出版事業費	1,838,000	2,390,130	遊・星・人
印刷製本費	1,300,000	1,886,300	5回分・表紙
送料運搬費	519,000	485,020	発送：委託事務
保管料	19,000	18,810	保管：委託事務
講演会事業費	668,000	569,950	
合同大会共催事業費	92,000	81,300	
送料運搬費	90,000	81,300	
秋季講演会事業費	476,000	388,650	立命館大学
予稿集印刷費	164,000	196,350	
会場費	120,000	0	会場費免除
送料運搬費	4,000	0	
消耗品費	20,000	16,300	
諸謝金	144,000	135,000	
雑費	24,000	41,000	
夏の学校補助金	100,000	100,000	
管理費(委託事務関連)	1,230,000	977,666	学会事務センター
業務委託費	745,000	688,349	含学会誌発送手数料
送料運搬費	470,000	274,670	
ニュースレター送料	276,000	79,360	
その他送料	194,000	195,310	会費請求
雑費	15,000	14,647	コピー・通信
管理費(事務局関連費)	351,000	291,240	
旅費交通費	147,000	118,480	学会受付者旅費
通信費	52,000	47,666	専用TEL・電報
送料運搬費	66,000	65,790	会誌著者分他
消耗品費	15,000	29,811	ファイル他
印刷製本費	38,000	18,900	連絡会news
諸謝金	9,000	0	
諸手数料	7,000	6,593	振込手数料
負担金	6,000	4,000	学協会サポート
雑費	11,000	0	

科 目	予算額	決算額	備 考
予備費	501,375	0	
当期支出合計 (C)	4,588,375	4,228,986	
当期収支差額 (A-C)	△411,375	△249,771	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	161,604	

以上の諸報告に対し、挙手による採決を行ない、賛成116（内委任状80）、反対0、棄権1で承認された。

2.5 第4期下期活動方針

中澤会長より、第4期下期の活動方針について以下の通り説明があった。

最近の財政状況の悪化の一因として、会費の滞納が挙げられる。とくに、従来は会費の滞納があっても3年間は遊星人を郵送し続けており、3年間経ってから本人に連絡を取ろうとしてもすでに取りなくなっているなどの問題があった。学生会員が就職した場合などについては、その指導教官は1年間程度は消息を追跡できるが、3年間経ってしまうともはや消息が分からなくなるとの意見もある。そこで、今後は1年間の滞納で遊星人の送付を中止することや、学生会員の場合には指導教官が責任を持って連絡を取るなどの方策を考えることにしたい。今年の惑星科学会秋季大会は、神戸大学で開催される予定であり、向井会員を中心に準備をいただいている。また、来年の秋季大会は東北大学で開催される予定であり、大谷会員を中心に準備をお願いしている。基調報告でも述べた学会連合に対する惑星科学会としての取り組みとしては、学会長懇談会での議論と平行して、学生会員にアンケートを取ることを検討している。2000年のWPGMを日本に招致する件については、惑星科学会としては財政的には援助はできないが、精神的にはサポートする方針であり、さらにプログラ

ム委員などの人的な面でも協力するつもりである。

2.6 予算案

渡邊財務専門委員長より、以下の通り第4期下期（1998年度）予算案の説明があった。

会の発足時より順調に増加してきた正会員（一般+学生）会費収入は、昨年度はじめて前年度を下回るマイナス成長となり、学会の膨張は終わり定常期に入ったと言える。さらに賛助会員数も減少している。よって今年度の会費収入は納入率アップをはかっても若干減少と見込まれ、借入金完済で緩みかけた財布の紐を引き締める必要がある。また、今年度は選挙の年で、ニュースレター印刷配布等で出費が見込まれる。恒例の名簿発行は見送り、会員の異動のみ掲載の小冊子を発行することとした。秋季大会の予稿集の印刷発行は、昨年度は赤字であったため、今年度から値上げ（1000円を1500円に）する方針である。また、これまで合同大会における惑星科学セッションのアブストラクトを学術情報センターへ提供することで得ていた収入は、今年度から合同大会LOCにもたらされることとなり、その分の収入も減る予定である。会費収入の減少により、今年度の収支はほとんどゼロになる可能性がある。

第4期下期(1998年度)収支予算書(案)(1998年1月1日~1998年12月31日)

I 収入の部

(単位:円)

科 目	予算額(案)	前年度決算額	備 考
会費収入	3,120,000	3,390,800	
一般会費収入	2,346,000	2,048,800	含海外会員
学生会費収入	576,000	404,000	
賛助会費収入	450,000	700,000	
滞納分納入	302,000	238,000	702,000円のうち
当期分未収会費	△554,000	--	回収率実績より
学会誌出版事業費収入	65,000	64,750	遊・星・人
講読料	65,000	64,750	個人・機関講読
広告料	0	0	
秋季講演会事業収入	340,000	336,000	神戸大学
予稿集頒布収入	180,000	116,000	1,500円/冊を予定
参加費	160,000	153,000	1,000円/冊を予定
雑収入	0	67,000	立命館大寄付
寄付金収入	0	0	
雑収入	151,000	187,665	
受取利息	1,000	1,823	
その他の収入	150,000	185,842	学情入力(秋のみ)
当期収入合計(A)	3,676,000	3,979,215	
前期繰越収支差額	161,604	411,375	
収入合計(B)	3,837,604	4,390,590	

II 支出の部

(単位:円)

科 目	予算額(案)	前年度決算額	備 考
学会誌出版事業費	1,777,000	2,390,130	
印刷製本費	1,500,000	1,886,300	昨年度は5回分
送料運搬費	519,000	485,020	学術刊行物認可で減額
保管料	19,000	18,810	保管:委託事務
講演会事業費	676,000	569,950	
合同大会共催事業費	90,000	81,300	
送料運搬費	90,000	81,300	プログラム郵送

科 目	予算額 (案)	前年度決算額	備 考
秋季講演会事業費	386,000	388,650	神戸大学
予稿集印刷費	174,000	196,350	
会場費	0	0	会場費無料
送料運搬費	4,000	0	
消耗品費	20,000	16,300	名札, 画鋏等
諸謝金	144,000	135,000	
雑費	24,000	41,000	ポスターボード等
夏の学校補助金	100,000	100,000	
IUGG分担金	100,000	0	研連から要請あれば
管理費(委託事務関連)	1,086,000	977,666	学会事務センター
業務委託費	735,000	688,349	名簿版下出力
送料運搬費	336,000	274,670	
ニュースレター送料	236,000	79,360	選挙広報など
その他送料	100,000	195,310	会費請求
雑費	15,000	14,647	コピー・通信
管理費(事務局関連費)	297,000	291,240	
旅費交通費	82,000	118,480	学会受付者旅費
通信費	52,000	47,666	専用TEL・電報
送料運搬費	66,000	65,790	会誌著者分他
消耗品費	20,000	29,811	投票用紙, ファイル
他			
印刷製本費	59,000	18,900	連絡会news, 選挙広 報
諸謝金	0	0	
諸手数料	7,000	6,593	振込手数料
負担金	6,000	4,000	学協会サポート
雑費	11,000	0	
予備費	1,604	0	
当期支出合計 (C)	3,837,604	4,228,986	
当期収支差額 (A-C)	△161,604	△249,771	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	161,604	

上記報告その他に関して、以下のようなコメントや質疑応答があった。

- ・海外から学会の情報を得にくいので、webなどを利用して過去のニューズレターなどを参照できるようにならないか、また途中からの入会者には会員名簿などが配布されていない状況はおかしいのではないかと。これに対し、前向きに努力したいが、名簿管理に関しては学会ではなく学会事務センターに委託しているために学会としての運用は難しい状況にある、との回答があった。また中澤会長からは、途中からの入会により名簿がないような場合には、学会事務局に訴えていただきたいとの回答があった。
- ・財政状況悪化による会費の値上げの可能性はないか？これに対し、会費の値上げは会員の間での十分な議論が必要であるが、現在すでになりにくい状況にあるため、次回総会において値上げの提案をすることもあり得る、との回答があった。
- ・財政状況が悪いにもかかわらず、今年度予算案において、要請されるかどうか分からないIUGG分担金10万円が計上されているのはおかしいのではないかと。これに対し、地球物理学研連の下にIUGG準備会があり、すでに昨年度各学会に分担金の供出の話があったが、惑星科学会は免除されたという経緯があること、今年はまだそのような話がないがそのうちに議論されるはずであること、などの説明があった。
- ・財政状況が悪いためIUGG分担金免除を求めるのであれば、予算に計上していない方が対外的には良いのではないかと。これに対し、確かにその通りではあるが、予備費に組み込んでおいて実際に要請があった時に運営委員会のみで議論して了承するというのは良くないと考えた、との回答があった。また、中澤会長からも、予算の

使用目的をはっきりさせておいた方が良くと思う、との意見が出された。

第4期下期活動方針について挙手による採決を行ない、賛成119（内委任状80）、反対0、棄権0で承認された。

3. その他

3.1 会計年度変更の可能性について

渡邊財務委員長より、会計年度変更の可能性について、下記のような意見が出された。合同大会の開催時期が遅くなったため、総会による会計予算案の承認が遅れることになるが、それによって予算の執行ができないというような事態は避けるべきである。そこで、今年度取ったやり方は、昨年秋季大会総会で今年度予算ガイドラインを審議・承認し、ガイドラインに基づいて正式な予算案を編成し、運営委員会で暫定的な承認を得、本総会での予算案承認までの間、緊急を要する件に関しては、予算案の枠内で暫定執行をする、というものであった。しかし、来年度以降の合同大会の開催時期も遅くなりそうなので、今後は会計年度を変更（4月1日～3月31日）する可能性も考えられる。ただし、合同大会の開催時期は今後も変わる可能性があること、会計年度の変更に伴って運営委員の任期も変更する必要が出てくるなどの問題もある。

この問題に関して、以下のようなコメントや質疑応答があった。

- ・合同大会の開催時期が、再び3月末に戻る可能性はないか？これに対し、今後の開催場所が今年の会場に固定される可能性があるが、その場合には合同大会開催が3月末になることはあり得ない、しかし開催場所が大学に戻る場合には逆に

春休みでなければ不可能なので3月末になる可能性はある、との回答があった。

- ・上記提案とは逆の例として、最近になって天文学会は会計年度を1月1日～12月31日に変更したということがある。また、合同大会の今後が分からない状況で会計年度を変更するのは良くないのではないかと。これに対し、運営委員会でも、合同大会に合わせて会計年度を変更するのはおかしいのではないかとという意見や、秋期大会総会時に予算案を立て春の大会で決算をするというやり方も考えられる、などの意見が出された、との回答があった。
- ・3月に予算を締めても問題ないのではないかと。これに対し、予算を締めてから報告書を作成して会計監査などを済ませるためにはかなりの時間がかかるためそれは難しい、との回答があった。
- ・今後の合同大会開催時期はどこまで確定しているのか？ これに対して、来年の予定すらまだ確定されていないこと、来年も今年と同じ会場を使うのであれば開催時期は6月となるが、札幌で開催するのであれば3月になる、との回答があった。これに対し、先のことが分からないのに会計年度の変更を行うことはおかしいのではないかと、との意見が出された。

3.2 合同誌について

比屋根会員より、合同誌について下記のような報告があった。

合同誌EPSは、順調に発行されているが、その内容は前身であるJPEやJGGがカバーしていた分野に偏っている。惑星科学会としては、投稿と購読を増やす努力をする必要がある。本大会でもEPS購読の申し込みができるようになっており、この会場にも申込用紙を用意してあるので、会員の皆様にはぜひ購読をお願いしたい。

中澤会長からは、EPSの表紙には日本惑星科学会

の名称が明記されており、秋季大会総会では会則にも学会誌であることを明記するようにしたいと考えていること、若い会員は別として、すでにestablishされた会員は率先してEPSに論文を投稿するように努力してほしいこと、などの意見が出された。

3.3 委任状の問題について

阿部議長から、今回の総会では議長委任の委任状が出席者数の約2倍もあり、全体の過半数を越える結果になるために会則の改正も議長1人でできてしまうことが指摘され、このような事態は異常であり何とかならないかと、との意見が出された。

3.4 学会における賞について

大会においてベストポスター賞などを出して学会を活性化させることを検討してはどうか、という意見が出された。これに対し、中澤会長からは、本学会はその発足時から賞のたぐいや名誉会員など、一部の会員を特別扱いする制度を設けない方針で運営されてきたこと、これは他学会などの実状を参考にしての方針であること、ただし財政的負担がなく完全な遊びで行うのであれば可能性はある、との回答があった。これに対し、遊びの例として、質量分析学会ではポスター会場での投票によって選ばれた発表者を懇親会で表彰している、というコメントが出された。中澤会長からは、そのような形であれば可能性はあるので運営委員会で検討したい、との回答があった。

◇第13回「大学と科学」公開シンポジウム

生きている地球の新しい見方

—地球・生命・環境の共進化—

主催：第13回「大学と科学」公開シンポジウム
組織委員会

後援：文部省

日時：平成10年11月21日(土)～22日(日)

場所：東京／朝日ホール

参加費：無料

お申し込み・お問い合わせ先：

【生きている地球】事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-16-7

ピュア虎ノ門3F(株)アドスリー内

TEL: 03-3459-0006 FAX: 03-3459-6894

E-mail: info@adthree.com

URL: http://www.adthree.com

シンポジウム開催にあたって

(熊澤峰夫 名大名誉教授)

地球の歴史解読に物証があるというが、どんな物証があるのか？ それらをどうやって確保するのか？ 過ぎ去ってしまったたった一回の歴史の解読手法はあるのか？ 一体何がどこまで分かるか？ 期待しているのか？ 実際、何が新たにわかったのだろうか？ 何が分からないままなのか？ われわれは本当は何を知りたいのか？ 地球環境の未来はどうなるのか？ そんなことについての私達の研究の最新の結果を聞いて頂く予定である。

プログラム

第1日目：平成10年11月21日(土) 10:00～17:00

A. 挨拶

第13回「大学と科学」公開シンポジウム
組織委員会／文部省

B. 全地球史解読計画は成立するか？

司会：高野雅夫（名大理）

1. 新しい地球観を求めて—地球の歴史を解読する
試み 熊澤峰夫（名大）
2. 変動する地球—中心核から海の水まで
丸山茂徳（東工大理）
3. 変貌する地球をコンピュータで再現する
瀬野徹三（東大地震研）

C. 地表に刻まれた地球中心からの情報と宇宙からのメッセージ

司会：瀬野徹三（東大地震研）

4. 大昔の地球磁石の謎 浜野洋三（東大理）
5. 隕石の爆撃を受ける宇宙に無防備な地球
藪下 信（京大工）
6. 太古、月は近かった 大江昌嗣（国立天文台）
7. 地球の気候を変動させる宇宙のしくみ
伊藤孝士（国立天文台）
8. 地層の縞縞から解読する地球史
高野雅夫（名大理）

第2日目：平成10年11月22日(日) 10:00～17:00

D. 過去の地球環境と生命から未来を考える

司会：熊澤峰夫（名大）

9. 昔の気候と未来の地球
阿部彩子（東大気候システム）
10. 大洋と大気と大陸は昔どうだったのか？
山中康裕（北大地球環境）
11. 地球と共進化する生命

川上紳一（岐阜大教育）

E. われわれはどこから来たのか？

司会：川上紳一（岐阜大教育）

12. 40億年前の熱い地球を忘れない生き物たち
山岸明彦（東京薬科大生命科学）

13. 生命が地球を変えた?

伊藤繁 (基礎生物学研)

14. 奇妙な生きものたちの饗宴

大野照文 (京大総合博物館)

15. 史上最大の生命絶滅事件の謎をとく

磯崎行雄 (東大総合文化)

F. われわれはどこへ行くのか?

司会: 磯崎行雄 (東大総合文化)

16. 地球史上の大事件がはじまっている

熊澤峰夫 (名大)

申込み方法:

下記(1)~(4)の必要事項をご記入の上、ハガキまたはFAX(03-5459-6894)でお申し込み下さい。

受講希望者には当日の資料引換券を郵送します。

(1) 住所

(勤務先・自宅) 丸印をつけて下さい

〒

TEL:

FAX:

(2) 氏名

(男・女) 丸印をつけて下さい。

年齢

(3) 職業(勤務先・役職名)

(4) 参加希望日時

11月21日(土) (午前/午後)

11月22日(日) (午前/午後)

日本惑星科学会1998年秋季講演会(神戸)に合わせた

◇「惑星大気研究会」(PACK)の開催の御案内

世話人: 山中大学・岩山隆寛(神大自然)

本稿投稿時点での賛同者(順不同・敬称略):

林祥介・山本哲生・渡部重十(北大理), 阿部豊・佐々木晶・田近英一・松田佳久(東大理), 品川裕之(名大STEL), 今村剛・小山孝一郎(宇宙研), 吉川顕正(九大理), 向井正(神大自然)

●期日・会場:

10月12日(月) 午後・神戸大学瀧川会館(惑星科学会前日・同会場)

●内容・構成:

惑星大気の代表的な問題に関する各1時間程度の講演3~4件程度(それぞれについて可能な限りの討論の時間を設ける)

(プログラム・講演者については、後述のホームページ参照)

●対象・参加資格:

現在または将来、地球および他惑星の大気圏に関する基礎的物理学を本格的に研究する意志があれば、一切の参加資格を問わない。

(本会のみ参加費は無料; 事前の参加申込みも不要)

●動機・趣旨:

- ・現在および今後の大気物理学の基礎的問題を発掘し、既存の地球および他惑星の大気中の諸現象に関する基本的理解を深める必要性
- ・惑星関係以外の学会を主たる発表・議論機会としてきた惑星大気研究者、および大気圏以外の惑星科学研究者の相互討論の必要性
- ・「地球惑星科学」の名のもとに集まってきた学生に、現時点および将来における惑星大気研究の実際と研究者の顔ぶれを教育する必要性
- ・研究のための研究会とし、継続や組織作りは少なくとも当面考えない

●詳細および問合せ先：

ホームページ：

[http://taikil.scitec.kobe-u.ac.jp
/~yamanaka/PACK.html](http://taikil.scitec.kobe-u.ac.jp/~yamanaka/PACK.html)

E-mail：

mdy@kobe-u.ac.jp (山中)

iwayama@kobe-u.ac.jp (岩山)